# 第Ⅱ部

# ラテン・アメリカ都市の形成

# 3　スペイン語圏カリブ海地域の比較都市史試論
## —サント・ドミンゴ、サン・ファン、ハバナ—

**キーワード**：サントドミンゴ、サンフアン、ハバナ、スペイン領植民地、城壁都市

志　柿　光　浩*

Notes for the Comparative History of Cities in the Spanish Speaking Caribbean:
Santo Domingo, San Juan and Havana

**Key Words**: Santo Domingo, San Juan, Havana/La Habana, Spanish colonies, walled city

SHIGAKI Mitsuhiro

1. はじめに
2. 各都市の発展過程
3. 都市の発展と城壁の存在
4.「官製都市」と「クリオージョ都市」
5. スペイン語圏カリブ海地域史の比較研究に向けて

## 1. はじめに

サントドミンゴ（Santo Domingo）、サンフアン（San Juan）、ハバナ（La Habana）は、いずれもスペイン人による西半球の征服・植民活動の初期に建設され、500年の歴史を持つ植民地起源都市である。また、いずれの都市も現在では、人口が100万人を越え、カリブ海地域を代表する近代的大都市であり、また現代の世界の大都市に共通する特徴をあわせ持つ。（図1参照）

本稿では、まずその発展過程を概観した上で、「城壁都市」としての発展過程、「クリオージョ都市に対する官製都市」としての発展過程に着目して、これら三都市の発展史の比較可能性について検討する。

* 東北大学大学院国際文化研究科・教授

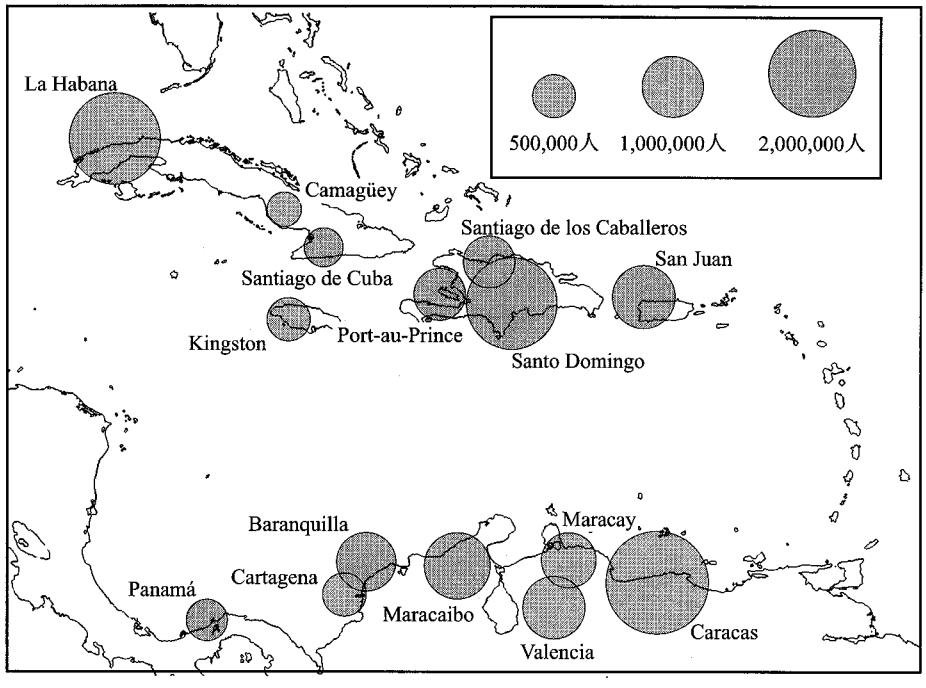



**図 1**　現在のカリブ海地域の大都市圏（1990-2000 年のデータによる）

出典：国連資料（URL http://unstats.un.org/unsd/demographic/sconcerns/densurb/densurb2.htm#City 2005 年 1 月 10 日参照）により作成。

## 2. 各都市の発展過程

### 2.1. 起源

**サントドミンゴ**

「新世界」においてヨーロッパ人が最初に植民活動を行ったのは、現在ハイチ共和国とドミニカ共和国が存在するヒスパニオラ（Hispaniola）島においてであった。その最初の植民集落は、コロンブスが 1492 年 12 月、第 1 回航海の際に島北部沿岸に作らせ、クリスマスを意味するラ・ナビダー（La Navidad）と名付けた植民集落だったが、翌年の第 2 回航海でコロンブスが戻るまでの間に壊滅した。コロンブスは、同じく島北岸に新たに植民集落を建設し、スペイン女王の名にちなんでラ・イサベラ（La Isabela）と命名したが、1496 年にスペインに帰国する際にヒスパニオラ島の統治を委任した弟のバルトロメ（Bartolomé）が島南部、オサマ（Ozama）川の河口東岸に新たに植民集落を建設すると、ここにスペイン人入植者たちが集まるようになった。その

後、1502年に総督に就任したニコラス・デ・オバンド（Nicolás de Ovando）は、この集落をオサマ川の対岸（西岸）に移し、これが現在のサントドミンゴ（Santo Domingo）市の起源となった。サント・ドミンゴはこれ以後、ヒスパニオラ島の政治・経済の中心となり、また16世紀初頭のスペイン人による新世界の征服と植民活動の拠点となった。

### サンフアン

1493年、コロンブスらは、その第2回航海で先住民が「ボリケン」（Boriquén）、あるいはそれに近い名前で呼ぶ島を発見し、洗礼者ヨハネの聖日にちなんでサン・フアン・バウティスタ（San Juan Bautista）島と命名した。その後、1508年にコンキスタドール（征服者）の一人であるフアン・ポンセ・デ・レオン（Juan Ponce de León）が、この島の植民を開始し、現在のサンフアン湾の西岸にカパラ（Caparra）植民集落を建設した。しかし湿気が多く、また海岸からの距離があったことなどから、1521年に植民集落は湾を隔てた半島先端部に移された。新しい集落は「豊かな港」を意味するプエルトリコ（Puerto Rico）と命名されたが、その後、島名と都市名が入れ替わって現在に至っている。

### ハバナ

キューバ島におけるスペイン人による最初の植民集落は、総督ディエゴ・ベラスケス（Diego Velázquez）の下で1512年に島北東部に作られたバラコア（Baracoa）であった。その後、バジャモ（Bayamo）、トリニダー（Trinidad）、サンクティ・スピリトゥス（Sancti Spíritus）、サン・クリストーバル・デ・ラ・アバーナ（San Cristóbal de la Habana）、プエルト・プリンシペ（Puerto Príncipe）の各集落が作られた。さらに1515年には島の南東部に作られたサンティアゴ・デ・クーバ（Santiago de Cuba）が総督所在地と定められた。この間、島南東部カリブ海沿岸にあったサン・クリストーバル・デ・ラ・アバーナは1519年に、北西岸に移された。Habanaという地名は、当時キューバ島西部で先住民の首領Habaguanexが支配していた地域を指すものであった。Habanaという地名がこの首領の名前と関連するのか、あるいは他の語源を持つのかは明らかではない。（Roig de Leuchsering 1963-64: I, 23-25）これが現在のラ・アバーナ（英語ではHavana、以下、ハバナ）の起源である。その後、1553年にサントドミンゴの聴問院は、キューバ総督府の所在地をサンティアゴ・デ・クーバからハバナに移すことを決定し、それ以後キューバの首都となった。

**表 1** サントドミンゴ、サンフアン、ハバナの人口の推移

| 16 世紀後半～ 17 世紀前半（世帯数 vecinos）[1] | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | ヒスパニオラ | サントドミンゴ | プエルトリコ | サンフアン | キューバ | ハバナ |
| 1540 | 2,910 | 1,000 | 550 | 400 | 850 | 250 |
| 1580 | 794 | 500 | 280 | 200 | 326 | 60 |
| 1630 | — | 600 | — | 300 | — | 1,200 |
| 18 世紀～ 19 世紀中葉[2] | | | | | | |
| | スペイン領ヒスパニオラ | サントドミンゴ | プエルトリコ | サンフアン | キューバ | ハバナ |
| 1700 頃 | | | 7,000 | | | |
| 1750 頃 | | | 27,000 | | | |
| 1760-70 頃 | | | 45,000 | 7,000 | 170,000 | |
| 1790 頃 | 125,000 | 12,000 | | | 270,000 | 44,000 |
| 1810-20 頃 | 70,000 | | 220,000 | 9,000 | 600,000 | 96,000 |
| 1840-50 頃 | 125,000 | 12,000 | 500,000 | 15,000 | 1,000,000 | 135,000 |
| 19 世紀後半[3] | | | | | | |
| | ドミニカ共和国 | サントドミンゴ | プエルトリコ | サンフアン | キューバ | ハバナ |
| 1860 頃 | | | 580,000 | 18,000 | 1,400,000 | |
| 1880 頃 | | 25,000 | 800,000 | 25,000 | 1,500,000 | 200,000 |
| 20 世紀[3] | | | | | | |
| | ドミニカ共和国 | サントドミンゴ | プエルトリコ | サンフアン | キューバ共和国 | ハバナ |
| 1900 前後 | 600,000 | 20,000 | 950,000 | 32,000 | 1,600,000 | 240,000 |
| 1950 頃 | 2,100,000 | 180,000 | 2,200,000 | 225,000 | 5,500,000 | 1,200,000 |
| 2000 | 8,400,000 | 2,200,000 | 3,800,000 | 1,200,000 | 11,200,000 | 2,200,000 |

1）Sepúlveda Rivera 1989: 59
2）スペイン領エスパニョーラについては、Moya Pons 1994: 194. プエルトリコおよびサンフアンについては、Sepúlveda Rivera 1989: 59. その他については、Mitchel 1998.
3）Mitchel 1998.

このように、いずれの都市もスペインによるインディアスの征服と植民の最初期にその起源をもつ。このうち、16 世紀初期までは、サントドミンゴがカリブ地域はもとより、インディアス全体の行政の中心地として重要な役割を果たしていた。1511 年にサントドミンゴに設置された聴聞院（audiencia）は、その後インディアス各地に設置されていった最初のもので、制度上はその後もインディアスの広い範囲を管轄下に置いていた。

しかし、メキシコ、さらにアンデスに先住民の帝国と莫大な富の存在が明らかになり、スペイン人の植民活動の重点が大陸部に移ると共に、これらの島々の植民活動は衰退する。（以下、人口の歴史的推移については表 1 参照）

## 2.2. スペインによるインディアス支配体制の中での機能の分化

16 世紀中葉以降、スペインのインディアス植民地経営の体制が整えられていくが、その中でカリブ地域のスペイン植民地には、富の源泉としてではなく、インディアス植民地の維持と経営のための軍事・通商上の機能が割り当てられていく。

ヨーロッパ各国はスペインによる「新世界」の富の独占を許すはずもなく、最初はフランス、その後イギリス、オランダが、カリブ海沿岸のスペイン領土とそこを通行する通商船舶への襲撃を展開した。本稿で対象とする三つの都市は、これらの脅威に対抗するための防衛拠点として位置づけられ、次節で見るように城壁や要塞が作られていく。特に、大アンティル諸島の最東部、アンティル諸島が描く孤の中で最も大西洋側に張り出した位置にあるプエルトリコ島のサンフアンは、要塞都市としての機能が最も大きかった。

一方、通商上の機能という点では、ハバナが中継港として重要な役割を担うことになる。1550 年代にスペイン本国政府は、インディアスとスペイン本国の間の海上交通の規制を強め、ヨーロッパの他の諸国による襲撃からの防衛上の理由から、フロータ（flota）およびガレオン（galeones）という二組の船団による定期護送船団制度の施行を決定し、1560 年代に運行が開始された。フロータ船団はメキシコの貿易港ベラクルス（Vera Cruz）に向かい、ガレオン船団はペルーとの交易の中継点である中米地峡のノンブレ・デ・ディオス（Nombre de Dios）、後にポルト・ベジョ（Porto Bello）に向かうものであった。これら二つの船団はそれぞれの目的地で交易を行った後、翌年にハバナ港で合流し、一つの船団を形成してメキシコ湾流に乗り本国への帰路を辿ることが定められた。この航路はインディアス航路（Carrera de las Indias）と呼ばれ、ハバナはこの航路の中でも最も重要な中継点となった。（図 2 参照）この結果、ハバナ港には定期的に大規模な船団が寄港し、また造船業も発展するなど経済活動が拡大した。こうして、16 世紀後半以降、ハバナはサントドミンゴおよびサンフアンとは対照的に、通商港湾都市としての拡大を見ることになる。

## 2.3. 18 世紀後期～ 19 世紀における発展過程

### サントドミンゴ

1789 年にフランス革命が勃発すると、ヒスパニオラ島西部を占めるフランス領サンドマング（Siant Domingue）植民地においても、それまで白人の支配の下で差別されていた混血のムラート層や自由黒人、黒人奴隷たちが旧体制の打破をめざして軍事行動を開始した。その結果 1801 年にはハイチ共和国が成立する。このことは、カリブ

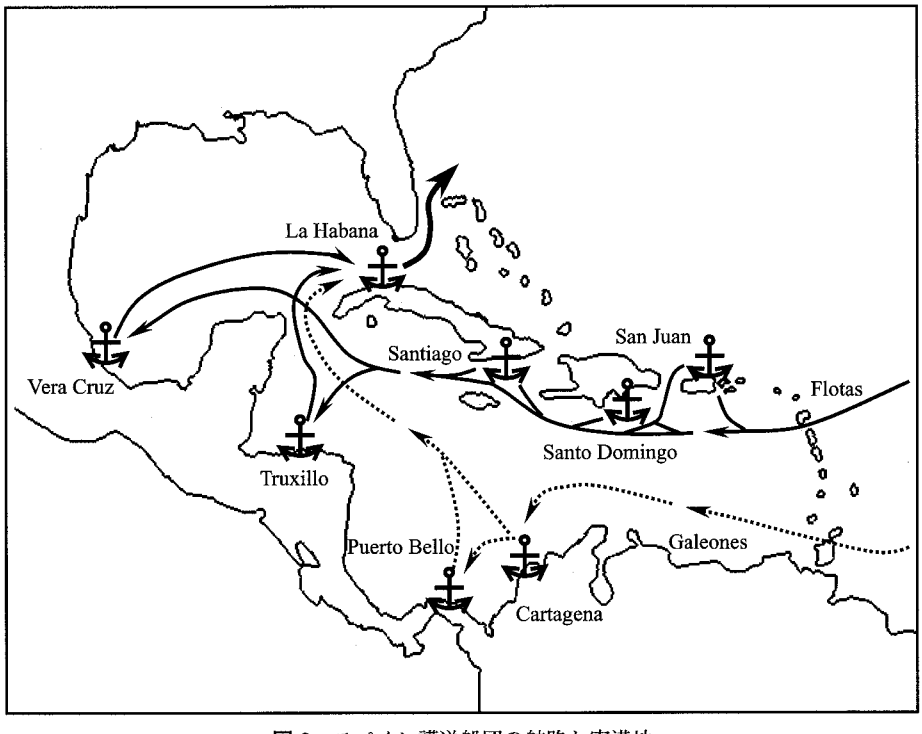



**図 2**　スペイン護送船団の航路と寄港地

（Watts 1987: 124. Fig. 3. 8 より作成）

地域のスペイン領地域に直接の影響を及ぼすこととなった。まず、サンドマングと国境を接するサントドミンゴ植民地は、サンドマングでの戦闘に巻き込まれ、さらに1822 年には、ハイチによって占領された。その後 1844 年にハイチからの独立を達成するが、政情は安定しなかった。1861 年から 1865 年までは一時、スペインの支配下に戻ったが、再度独立した。その後も、20 年弱の間に 30 回近い政権交代が行われる状況であった。

この間、北部のシバオ地域でタバコの栽培が盛んになり、シバオ盆地の中心地サンティアゴ・デ・ロス・カバジェーロスと北部沿岸のプエルト・プラタの人口が拡大した。一方、サント・ドミンゴは首都ではあったが、経済的にも人口の面でもこれら 2 つの町に遅れをとる状況であった。とは言え、いずれの都市も人口は 1 万人以下であった。1882 年にウリセス・ウロ（Ulises Heureaux）が大統領に就任し、1899 年まで続く独裁体制を敷く一方、南部を中心に近代的砂糖産業が広まる中で、サントドミンゴの都市としての拡大はようやく始まることになる。

## サンフアン

16 世紀から 18 世紀を通じて、プエルトリコはスペインのインディアス植民地経営の中で周辺的な位置づけしか与えられなかった。それは防衛拠点としての位置づけであり、メキシコ副王府から situado と呼ばれる予算措置が行われていたものの、しばしば現金の到着が何年も滞るという状況であった。このような状況に変化が生じるのは、1759 年にスペイン王位についたカルロス三世がサンフアンの防衛機能の強化を命令して後のことである。1770 年代から 80 年代にかけて、工事が進められ、1797 年にイギリス軍がサンフアンを攻撃した際には、これを撃退した。カルロス三世の治下（1759 年～ 1788 年）には、インディアス貿易の自由化も進められ、キューバをはじめとした他のスペイン領植民地では経済活動が拡大したが、軍事拠点としての機能以外には特段の植民政策が進められていなかったプエルトリコには、大きな効果はもたらされなかった。

数世紀にわたる社会経済活動の停滞から脱却し、プエルトリコ社会が拡大を始めるのは、19 世紀に入って後のことである。1815 年に恩恵勅令（Cédula de Gracias）が発布され、移民、奴隷輸入、農園開発が奨励され、旧フランス領植民地やスペイン本国からの移民が増加した。さらに大陸部のスペイン領植民地が相次いで独立し、インディアスの植民地がキューバとプエルトリコだけになったために本国政府も植民地としてのプエルトリコの存在を重要視するようになった。このような中で 18 世紀前半にはコーヒーの生産が拡大し、また 1870 年以降は砂糖の生産が拡大した。これにともなってサンフアンの人口も徐々に増加していったが、その機能は軍事・行政的なものを主としており、19 世紀末の人口は 3 万人程度であった。

## ハバナ

一方、1770 年代の時点でハバナはすでに 4 万人の人口を抱えており、当時においては大陸部のメキシコ市とリマ市に次いで、スペイン領インディアスでは第 3 の都市であった。この後も 19 世紀末まで、ハバナは拡大を続けていくことになる。

18 世紀後半のキューバ、そしてその首都ハバナでは重大な変化が生じた。七年戦争でスペインと対立していたイギリスが 1762 年にハバナを占領したのである。終戦によってハバナはスペインに返還されたが、これを契機にハバナの防衛機能の強化が進められた。またインディアス域内貿易の自由化によりハバナの交易活動は拡大した。また、奴隷貿易の自由化、それまで最大の砂糖生産地であったフランス領サンドマング（ハイチ）における生産の激減、生産技術の革新などの結果、18 世紀後半に拡大し

始めていた砂糖生産はさらに拡大を続け、19 世紀を通じてキューバ経済は大幅な発展を遂げた。これを背景にハバナの人口は確実に増加を続け、1820 年頃までには 10 万人を越え、1880 年頃までには 20 万人を越えるにいたった。この間、市域は城壁に囲まれた旧市街を越えて拡大を続けた。

## 2.4.20 世紀における都市の拡張

### サントドミンゴ

19 世紀最後の四半世紀、ドミニカ共和国南部で砂糖産業が繁栄したことからサントドミンゴの人口も増え、市域は北部および西部へと拡大した。20 世紀に入った後も拡大は続き、1920 年頃までには、サントドミンゴは再びドミニカ共和国最大の都市となる。1920 年のサントドミンゴの人口は 3 万 1 千人、2 番目のサンティアゴ・デ・ロス・カバジェーロスの人口は 1 万 7 千人であった。当時、プエルト・プラータと中北部のシバオ（Cibao）盆地を中心とした農業生産地帯の間には鉄道が建設されていたが、サントドミンゴと内陸部を結ぶ鉄道はなく、道路網も未整備であった。

その後、1916 年から 1924 年にかけてドミニカ共和国はアメリカ合衆国による占領を受けるが、この間に国内交通網の整備が進み、また衛生状態が改善され、人口が増加し、移動も容易になる中で、サントドミンゴの人口も拡大を始めた。

1930 年から 1961 年までの 30 年間にわたるラファエル・トルヒージョ（Rafael Trujillo）による独裁期に、サントドミンゴは一層の発展を遂げることになる。サントドミンゴ近郊のサンクリストーバル（San Cristóbal）出身のトルヒージョは、国家の保護の下で南部地域に砂糖産業を発展させ、サントドミンゴに砂糖精製工場をはじめ多くの工場を設置した。トルヒージョは 1936 年にサントドミンゴをトルヒージョ市（Ciudad Trujillo）と改名し、自らの支配の象徴としてその近代化を進めた。その後 1961 年のトルヒージョ暗殺によって再びその名称はサントドミンゴの名称に戻されたが、サントドミンゴとその周辺地域における工業化は続き、人口は年平均 6%～7% で拡大を続け、現在は人口 220 万人を越え、ハバナと並ぶカリブ海地域最大の都市となっている。他のラテンアメリカの大都市と同様に、都市の発展は均等ではなく、モダンな商業施設や高級住宅街が見られる一方で「労働者居住区」（barrio obrero）あるいは「底辺層居住区」（barrio marginado）と呼ばれるスラム街地域が拡大している。電気、上下水道、交通機関などのインフラストラクチャーが不十分であるという他の都市と共通した問題も抱えている。サントドミンゴは 3 つの都市の中で、20 世紀に最も急激な変貌を遂げた都市であるといえる。

## サンフアン

サンフアンもまた、20世紀に急激な拡大を経験した。キューバにおけるスペインからの独立戦争にアメリカ合衆国が介入して戦われた米西戦争の結果、キューバは共和国として独立し、プエルトリコはアメリカ合衆国の領土となった。アメリカ合衆国の支配の下で衛生、教育、通信、交通などのインフラストラクチャーの近代化が進められ、またアメリカ資本の直接投資が急激に拡大した。サンフアンでは狭隘な半島突端部に位置する旧市街から市街地は南部方向の内陸部へと拡大していった。

第2次世界大戦後のプエルトリコでは、積極的な工業化政策がとられ、それまでの砂糖生産を中心とした生産構造が大きく変容した。農業生産は衰退し、かわって繊維工業などを中心とした製造業、さらに1970年代以降は薬品や電気製品などを中心とした製造業の誘致が進められた。一方で、社会福祉などアメリカ連邦政府からの資金移動も拡大し、労働人口は以前の第1次産業から第2次、第3次産業へと移動していった。この過程で農村部から都市部への国内人口移動が拡大し、サンフアン大都市圏の人口は拡大を続けている。アメリカ合衆国の領土であり、さまざまな基準や規制も本土と同水準であるため、電気、上下水道、通信などのインフラストラクチャーは他のカリブ地域やラテンアメリカの大都市と比べて整備されている。また、1950年代以降の公共投資の結果、道路網や公共住宅の整備も進み、他の大都市のようなスラム街は見られない。しかし、低所得者向けの公共団地を中心に、麻薬や暴力組織の問題が社会問題化している。

## ハバナ

アメリカ合衆国の事実上の保護国としてとは言え、スペインからまがりなりにも独立した1900年の時点で、ハバナはすでに24万人の人口を抱える大都市であった。その後、アメリカ経済の直接の影響化で砂糖産業をはじめとするキューバ経済の拡大が進む中で、ハバナの都市としての拡大は、スピードを増すことになる。1930年までにはハバナの人口は約3倍の73万人となり、さらにその後1950年までの20年間で人口は倍増し、123万人に達した。特に旧市街から西部、南部に向けての市域の拡大が進んだ。

1959年に成立した革命政府は、それまでのハバナへの社会経済活動と人口の一極集中の状態を改善する政策を基本とした。このため旧ハバナ市街から当初西部および南部へ拡大し、さらに東部への拡大を続けていたハバナの都市圏の拡大傾向は鈍化した。また、人口増加率も鈍化した。しかし人口の増加は続き、現在ハバナ市は220万

人の人口を抱えている。

## 3. 都市の発展と城壁の存在

以上のように、16 世紀初頭までの植民初期と 20 世紀に入って後の大都市化の時期については、これらの 3 都市は共通した発展過程を見せているが、これらの時期にはさまれた 16 世紀中葉以降 20 世紀初頭までの 3 世紀あまりの時期については、それぞれに異る歴史の過程を歩んできた。大都市化した現在では分かりにくいその歴史の違いを、これらの 3 都市が共通して備えていた特徴、かつてこれらの都市はいずれも城壁に囲まれた街であったという特徴を手がかりに、浮き彫りにすることができる。

アナール学派の歴史家ジャック・ルゴフは、城壁都市の歴史を検討する際の視点として以下のようなテーマを提起している（Le Goff 1989: 13-20）。

1）城壁の建設について（年代・背景・技術・経済的側面・社会政治的側面）
2）「城壁都市」の特徴
　a）要塞都市の中の社会
　b）政治的要因
　c）中心・街区・周辺
　d）都市と暴力
　e）公と私
　f）清潔さと汚さ
　g）都市とその過去：記念碑・遺産
　h）意識、都市の自覚
　i）都市のイメージ、都市のシンボル：城門と塔
　j）都市の 3 機能：聖なるもの・軍事・経済
　k）都市と農村
　l）城塞との関連における都市の類型論
3）城壁の取り壊しについて（年代・取り壊しの経過・背景・旧来の城壁の場所）

ここでは、これら全ての側面について検討することはできないが、これらのうち、城壁の建設、城壁の中心と周辺、城壁の取り壊しという観点に絞って、主にサンフアンとハバナについての状況を簡単に検討する。

## サントドミンゴ

カリブ海地域では、16世紀初頭にはフランス人による「海賊」行為が始まっており、その攻撃に備えて1538年にはサント・ドミンゴ市を城壁で囲む工事が開始された。その完成までには100年間の月日を要することとなる。図3は18世紀後期の都市図から作成したサントドミンゴ市街の模式図であるが、城壁内部に建造物のない部分がかなりの割合で残されていることが見て取れる。サントドミンゴの場合、この城壁が取り壊されたのは20世紀に入って後のことであった。

## サンフアン

ヒスパニオラ島と同じくプエルトリコにおいても、フランス人の海賊から領土を守り、またカリブ海の自国交易のシーレーンを守るために、1539年に要塞の建設が決められた。その後も、1595年のFrancis Drakeによる攻撃、1598年のGeorge Cliffordによる攻撃と占領、1625年のオランダ軍による攻撃、というようにイギリス、フランスによるプエルトリコへの攻撃は続いた。こうした状況を背景として、要塞のみならず、都市全体を取り囲む城壁の建設が1630年に開始され、1670年代までには、南部および東部の城壁が完成した。

その後、18世紀に入って後もサンフアンは、1702年にはイギリス軍による攻撃、翌1703年にはオランダ軍による攻撃を受けた。1765年にカルロス三世は軍顧問をプエルトリコに派遣し、植民地政策を刷新するとともに、要塞の防衛能力の強化策を策定させ、その工事は1770年代から1780年代にかけて行われた。これと併行して街を取り囲む城壁の建設が進められ、1790年代までに町全体を取り囲む城壁が完成した。

前述のとおりサンフアンの都市発展は19世紀に入って後に本格的に開始する。図4は18世紀後期、および19世紀後期のサンフアンの都市図をもとに建造物の占有状況を示したものだが、18世紀後期についてみてみると、まだ城壁内に建造物のないスペースが多く残されていることがわかる。またおよそ100年後の19世紀後期についてみてみると、城壁内の建造物が増加していること、城壁の外の港湾部に建造物が増えていることが見て取れるが、それを越えた広範囲で市街区域が拡大しているという状況は生じていないその理由の一つは、城壁に囲まれた市街区域の東側に続く地峡部の地帯はスペイン軍の管轄地であり、商業・居住区域としての使用が制限されたことにあった。

一方で19世紀の間にサンフアンの人口は1万人から3万人に増加しているのに対し、居住地域の拡大が城壁の存在によって阻止された結果、19世紀末のサンフアン市

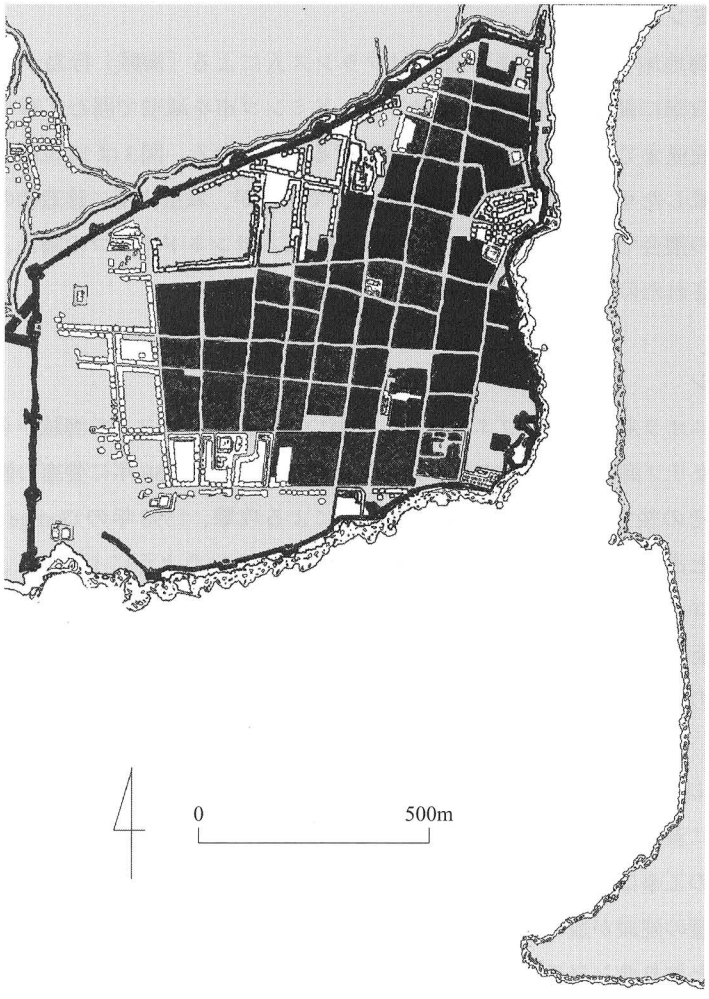



**図 3**　1785 年頃のサント・ドミンゴ市街
Sepúlveda Rivera 1989: 152 より作成

街は人口の圧力を内に抱え込んでいた。このような圧力を背景にして米西戦争の前年、1897 年についに、城壁東側部分が取り壊され、サンフアンは城壁を越えて、その東側へと拡大を開始することになった。

### ハバナ

1655 年にイギリスがジャマイカ島を占領したことは、カリブ海域における戦略的条件に大きな変化をもたらした。キューバ島にあっては、ハバナの防衛上、陸路からの

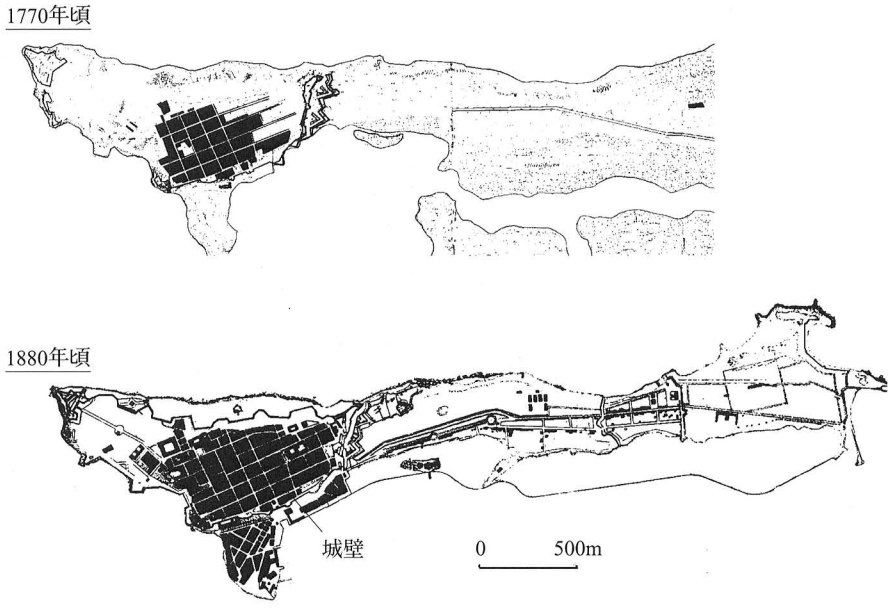



**図4**　サンフアン市街の発展

攻撃の可能性が高まり、これに対処するためにハバナ市街を城壁で囲むことが提案された。建設工事は1674年に始まり、完成したのは100年以上を過ぎた1797年のことであった。

図5は、それぞれ18世紀末、19世紀中葉、19世紀後期のハバナの都市図をもとに建造物の占有状況を示したものである。サントドミンゴやサンフアンの場合とは対照的に、18世紀末にはすでに、城壁内の区域は建造物で埋め尽くされ、さらに城壁の外側の一定距離を隔てた区域に市街区域が形成されていることがわかる、また19世紀中葉には、城壁を飲み込んだ形で大きな市街区域が形成され、すでに城壁の外側の区域が内側の区域を凌駕していることがわかる。そして1870年代の図にはすでに城壁は見られない。ハバナの城壁の取り壊しが許可を受けたのは1841年、実際に工事が開始されたのは1863年のことであった。

以上のように、サントドミンゴで城壁が取り壊されたのは20世紀に入って後のことであり、サンフアンでも城壁が取り壊されたのは19世紀末のことであった。これに対して、ハバナではすでに18世紀末には市域が城壁を越え、19世紀中葉には城壁が取り壊された。ハバナという都市の性格が、要塞都市、行政都市としてのそれを早

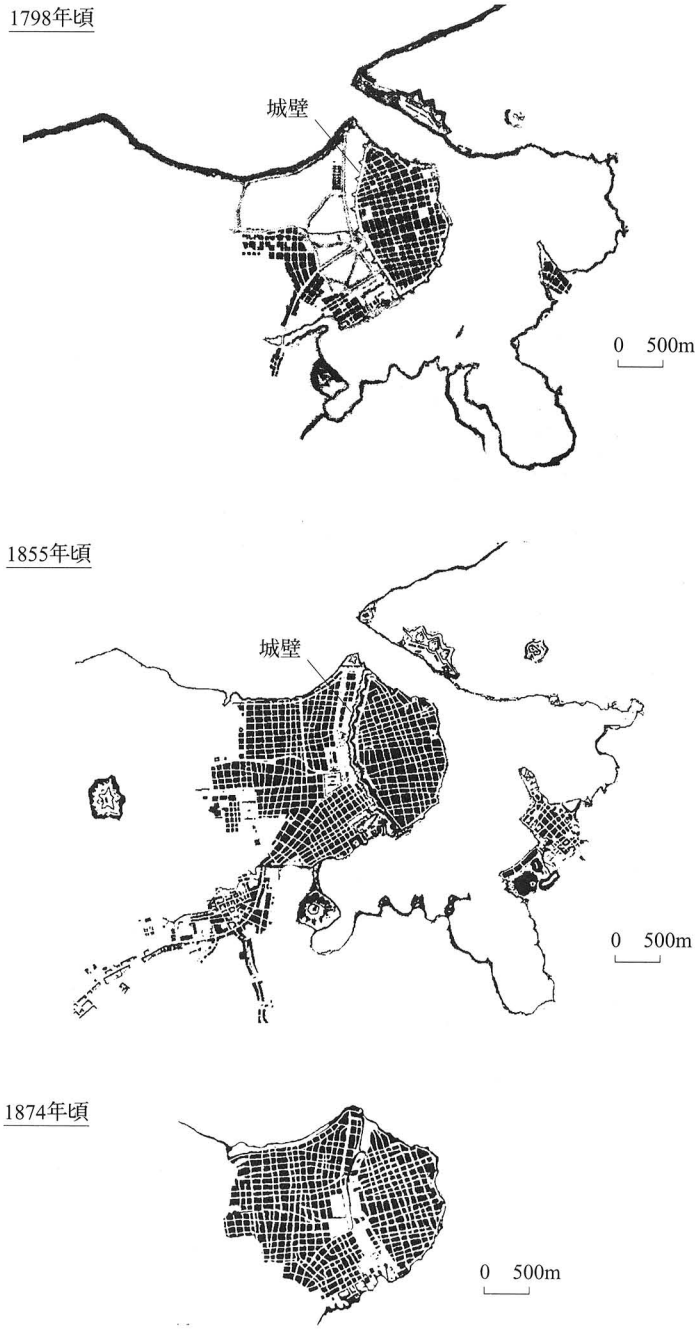



**図 5** ハバナ市街の発展と城壁

期に凌駕したことがそこには反映されているといえよう。

## 4.「官製都市」と「クリオージョ都市」

プエルトリコの社会経済史家 Angel Quintero Rivera は、19 世紀から 20 世紀への世紀転換期におけるプエルトリコの 2 大都市サンフアンとポンセの支配階層の力関係の変化について扱った論考で次のように述べている。

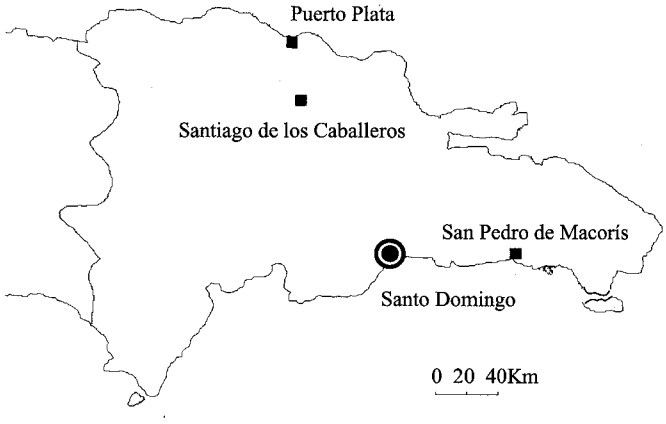
> ニューヨークよりはシカゴのほうが、アメリカ文化をよく表しているというのは本当だろうか？サントドミンゴよりはサンティアゴ・デ・ロス・カバジェーロスのほうがドミニカ共和国の人々を代表しているというのはどうだろう？そして一九世紀のロシアを象徴しているのはモスクワよりも、むしろセント・ペテルスブルクのほうだというのは？（Quintero Rivera 1988: 23）

ある都市の発展過程の特徴を捉える上で、都市対農村という対比関係とは別に、他の都市との対抗という視点を設定することは有益である（図 6 参照）。20 世紀に入って、本稿で扱っているスペイン語圏カリブ地域の国や地域でも、首位都市への人口集中や経済活動の集中の傾向が強まったが、それ以前は、特にドミニカ共和国とプエルトリコの場合において、それぞれにサントドミンゴやサンフアンに対して人口や経済活動の規模においてこれらの都市と拮抗し、あるいは凌駕するような都市が存在していた。Quintero Rivera が指摘しているように、都市の間の対抗関係は、経済の主導権を握る階層の間の力関係、それらの階層と政治権力を持つものとの間の力関係の表出としても捉えることができる。「官製都市」と「クリオージョ都市」というカテゴリーを設定し、これを対比させることによって、これらの都市の発展過程の特徴が鮮明になってくる。「クリオージョ」（criollo）とはスペイン語では、スペインに対して「中南米独自の、地元の」という意味を持つ。

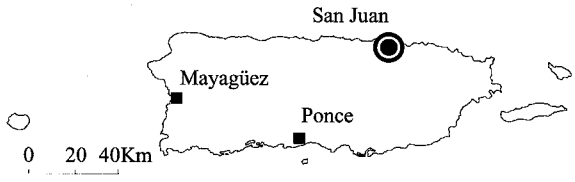
### サントドミンゴとサンティアゴ・デ・ロス・カバジェーロス

サンティアゴ・デ・ロス・カバジェーロスはドミニカ共和国の中北部に位置するシバオ盆地の中心都市である。シバオは農業生産のさかんな地域で、19 世紀以降現在まで、タバコの生産を中心として輸出向け作物の栽培が行われてきた。19 世紀後半にはこのシバオ地域の農業生産を背景に、サンティアゴ・デ・ロス・カバジェーロスは、

ドミニカ共和国




プエルトリコ




キューバ

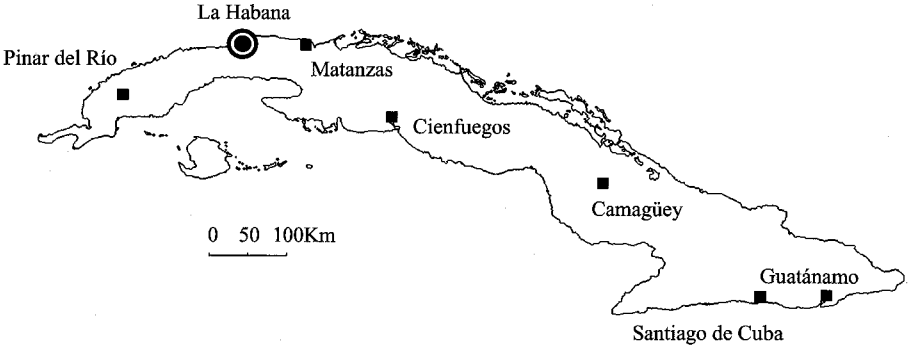



**図6** スペイン語圏カリブ地域の主要都市

北岸のタバコ積み出し港プエルト・プラータと共に、人口においても経済活動量においてもサントドミンゴを凌駕していた。

前述のように、19世紀最後の20年間に南部を中心に砂糖生産が拡大し、サントドミンゴの発展が始まり、また20世紀に入り、1930年から1961年まではトルヒージョの独裁体制の下で、サントドミンゴおよび南部地域の振興が優先されるが、そのような条件の中でもサンティアゴ・デ・ロス・カバジェーロスは衰退を免れ、現在まで北部における農業および工業の中心地として機能している。

サントドミンゴがその起源においても、20世紀の都市発展においても、「官製都市」としての特徴を強く見せているのに対して、19世紀前半にはハイチからの独立運動の拠点ともなったサンティアゴ・デ・ロス・カバジェーロスは、「クリオージョ都市」として位置づけることができる。

## サンフアンとポンセ

プエルトリコにおけるこれら二つの都市の場合にも、「官製都市」と「クリオージョ都市」という対比が当てはまる。

ポンセ（Ponce）は19世紀のプエルトリコにおいてコーヒーとサトウキビという輸出向け商品作物の栽培を中心とした農業経済が発展するなかで、都市として発展した。19世紀末のポンセの人口は、サンフアンとほぼ拮抗していた。同じく港湾都市でありながら、19世紀のサンフアンが輸入港であったのに対して、ポンセは島西岸のマジャグエス（Mayagüez）とならんで砂糖やコーヒーを中心とした輸出港であった。サンフアンが消費地であったのに対して、ポンセは生産地であり、また流通の拠点であったということができる。したがってサンフアンが官僚と軍人の多く住む都市であったのに対して、ポンセは農業経営および通商関連の企業家が多く住む都市であった。19世紀末から20世紀初頭にかけてプエルトリコを代表する政治家であったムニョス・リベラ（Luis Muñoz Rivera）は、「ポンセこそプエルトリコで最もプエルトリコ的な街だ」という言葉を残している。（Quintero Rivera 1988: 68）

20世紀に入って、アメリカ資本が流入し、その拠点をサンフアンに置くようになると、生産・流通領域におけるポンセの優位は後退し、その後現在に至っている。しかしながら、19世紀末当時の建築を多く残すポンセという都市の存在は、19世紀まではスペインの官僚と軍人が駐在し、20世紀にはアメリカ連邦政府の出先機関が集中するサンフアンの「官製都市」としての性格を際立たせる役割を果たし続けていると言える。

### ハバナとサンティアゴ・デ・クーバ

キューバにおいてサントドミンゴとサンティアゴ・デ・ロス・カバジェーロス、サンフアンとポンセの関係にあたるものは、ハバナとサンティアゴ・デ・クーバとの関係である。しかし、サンティアゴ・デ・クーバの場合には、スペインによる植民活動の初期に植民地行政の中心地であったこと、ハバナとならんで軍事拠点としての機能を与えられ、要塞と城壁の建設が行われたこと、現在もオリエンテ州の行政的中心地であることなど、ハバナに次ぐ官製都市としての性格を強く持つと言える。この意味では、上記の 2 つの例とは状況が異ると言える。

## 5. スペイン語圏カリブ海地域史の比較研究に向けて

スペイン語圏カリブ地域を構成するドミニカ共和国、プエルトリコ、キューバは、カリブ海の島嶼国家・地域としてその環境条件と植民地としての起源に共通性を持っている。しかし、16 世紀初頭の植民初期を除いて、これら 3 つの旧植民地は対照的な軌跡を歴史的に描いてきた。

政治史をたどれば、ドミニカ共和国は 19 世紀にスペインから独立するが、キューバとプエルトリコは 19 世紀末までスペインによる植民地支配の下にとどまった。1898 年の米西戦争でキューバは独立し、プエルトリコはアメリカ合衆国の領土となる。さらに 20 世紀後半には、キューバは社会主義国となり反米の立場に立ってきたが、プエルトリコではアメリカ合衆国の領土としての地位が固定化した。

また経済史をたどるならば、キューバは 16 世紀から 18 世紀にかけてスペインの植民地貿易の中継地として重要な役割を果たし、18 世紀後期以降は、砂糖プランテーションの拡大に基盤をおいてカリブ海地域の中でも最も経済的に発展した社会となった。これに対して、19 世紀までのサントドミンゴ植民地はスペイン植民地経済のなかで後進地域となり、独立後も 19 世紀末近くまで経済発展は進まなかった。プエルトリコも砂糖生産が拡大し、人口が増加し始めたのは 19 世紀の後期になってからのことである。20 世紀に入ってからの経済状況も極めて対照的である。キューバは社会主義統制経済の道を選択したが、ソビエト連邦への過度の依存におちいり、1990 年代以降はソビエト連邦が崩壊したことによって深刻な打撃を受けることになった。これと対照的にプエルトリコは、資本主義的経済発展のショーウィンドーとなったが、アメリカ経済ならびにアメリカ合衆国連邦政府への依存を深めている。一方、ドミニカ共和国は独裁体制をへて、アメリカ合衆国の資本と市場に依存しながら経済成長を達

成するようになったが、国内の貧富の格差は依然として極めて大きい。

これら三つの国と地域のこのような歴史を対比して理解するには一定の尺度をもつことが必要となる。それぞれの首都、サントドミンゴ、サンフアン、ハバナの各都市の発展過程をそれぞれの国や地域の歴史を比較するための尺度として用いることができるのではないか。これらの3つの都市はいずれも、15世紀末に始まるカリブ海地域でのスペイン人による植民活動に起源を持ち、その後各植民地の首都機能を与えられた。またかつて城壁都市であったという共通項も持つ。今後、このような視点からの比較研究に取り組んでいく必要がある。

## 参考文献


Bethell, Leslie. ed.
1993 *Cuba. A Short History.* Cambridge: Cambridge University Press.

Cueto, Emilio.
1999 *Cuba in Old Maps.* Miami: The Historical Musueum of Southern Florida.

Díaz-Briquets, Sergio.
1994 "Cuba." in Gerald Michael Greenfield, ed. *Latin American Urbanization. Historical Profiles of Major Cities.* Westport, Connecticut: Greenwood Press, pp. 173-187.

Eguren, Gustavo.
1986 *La fidelísima Habana.* La Habana: Editorial Letras Cubanas.

Hostos, Adolfo de.
1966 *Historia de San Juan. Ciudad Murada.* San Juan, Puerto Rico: Instituto de Cultura Puertorriqueña.

Kuethe, Allan J.
1991 "Havana in the Eighteenth Century." in Franklin W. Knight and Peggy K. Liss, eds. *Atlantic Port Cities. Economy, Culture, and Society in the Atlantic World, 1650*-1850. Knoxville, Tennessee, University of Tennessee Press, pp. 13-39.

Lapique Becali, Zoila.
2002 *La memoria en las piedras.* La Habana: Oficina del Historiador de la Ciudad de La Habana.

Le Goff, Jacques.
1989 "Construcción y destrucción de la ciudad amurallada. Una aproximación a la reflexión y a la investigación." en Cesare de Seta y Jacques Le Goff, eds. *La ciudad y las murallas.* Madrid: Ediciones Catedra, pp. 11-20.

Marrero, Levi.
1971-1992 *Cuba: economía y sociedad.* 15 tomos. Madrid: Playor.

Mayo Santana, Raúl, Mariano Negrón Portillo y Manuel Mayo López.
1997 *Cadenas de esclavitud... Esclavos y libertos en San Juan, siglo XIX.* San Juan: Centro de Investigaciones Sociales, Universidad de Puerto Rico, Recinto de Río Piedras.

Moya Pons, Frank.
1994 "Dominican Republic." in Gerald Michael Greenfield, ed. *Latin American Urbanization. Historical Profiles of Major Cities.* Westport, Connecticut: Greenwood Press, pp. 188-214.
1995 *The Dominican Republic. A National History.* New Rochelle, NY: Hispaniola Books

Corporation.
Núñez Jiménez, Antonio.
1995 *San Csristóbal de la Habana.* La Habana: Ediciones Caribbean's Color.
Ortega Pereyra, Ovidio.
1998 *El Real Arsenal de La Habana. La construcción naval en La Habana bajo la dominación colonial española.* La Habana: Editorial Letras Cubanas.
Pérez, Louis A., Jr.
1988 *Cuba. Between Reform and Revolution.* New York: Oxford University Press.
Pérez-Beato, Manuel, ed.
1941 *Archivos de Indias. Ingenieros cubanos. Siglos XVI, XVII y XVIII. Noticias históricas extractadas pr el Capitán de Ingenieros, Don Benito León y Canales.* La Habna: Ediciones del Archivo Histórico Pérez-Beato.
Quiles Rodríguez, Edwin R.
2003 *San Juan tras la fachada: una mirada desde sus espacios ocultos (1508-1900).* San Juan: Editorial Instituto de Cultura Puertorriqueña.
Quintero Rivera, Angel G.
1988 "La capital alterna: Los significados clasistas de Ponce y San Juan en la problemática de la cultura nacional puertorriqueña en el cambio de siglo." *Patricios y plebeyos: burgueses, hacendados, artesanos y obreros. Las relaciones de clase en el Puerto Rico de cambio de siglo.* Río Piedras, Puerto Rico: Ediciones Huracán, pp. 23-98.
Roig de Leuchsering, Emilio.
1963-64 *La Habana. Apuntes históricos.* 3 tomos. 2a. edición. [s. l. ]: Editora del Consejo Nacional de Cultura y Oficina del Historiador de la Ciudad de La Habana.
Sánchez Robert, Siomara.
2001 *La Habana. Puerto y ciudad, historia y leyenda. Una bibliografía en el tiempo (siglos XVI-XX).* La Habana: Oficina del Historiador de la Ciudad de La Habana.
Sauer, Carl Ortwin.
1969 *The Early Spanish Main.* Berkeley, CA: University of California Press.
Scarano, Francisco A.
1993 *Puerto Rico: cinco siglos de historia.* Santa Fé de Bogotá: McGraw-Hill Interamericana.
Segre, Roberto, Mario Coyula and Joseph L. Scarpaci.
1997 *Havana: Two Faces of the Antillean Metropolis.* Chichester, West Sussex: John Wiley & Sons.
Sepúlveda Rivera, Aníbal.
1989 *San Juan: Historia ilustrada de su desarrollo urbano, 1508-1898.* San Juan, Puerto Rico: Carimar.
Suárez Portal, Raida Mara.
[s. d.] *La Habana. Ciudad viva.* [s. l. ]: Oficina de Historiador, Ciudad de La Habana, Centro Internacional para la Conservación del Patrimonio, España.
Watts, David.
1987 *The West Indies. Patterns of Development, Culture and Environmental Change since 1492.* New York: Cambridge University Press.
Williams, Eric.
1970 *From Columbus to Castro. The History of the Caribbean 1492-1969.* London: André Deutch. (ウィリアムズ，E. 著，川北稔訳．2000.『コロンブスからカストロまでカリブ海域史、1492-1969』I，II，岩波書店)
角川雅樹
1991 「アメリカとラテンアメリカのはざまで：プエルトリコ・サンファン市」国本伊代・乗　浩子編『ラテンアメリカ 都市と社会』新評論，pp. 251-275.